

- 1 またひとつアブラシオン——高山宏 004
 ライプニッツフレーゲ可能世界意味論——野本和幸 008
 ●エルストカシラー＋バオロロシ＋ノバートウィナー＋グスタフルネホッゲ 012
- 2 本をかむつた普遍言語学者——荒俣宏 014
 ファルツ選帝侯一家と十七世紀哲学——野田又夫 018
 ●シエルセル＋マルテック＋ハイテッカー＋オルタスハクスレー＋南方熊楠 023
- 3 事実の真理としての歴史——阿部謹也 025
 ライプニッツの善とカントの悪「アルベト・ハイネカブのこと」——門脇卓治 030
 ●上原専祿＋ポールアザール＋ヒール＋イマニエルカント 033
- 4 『巜』のバロキスム——谷川渥 036
 ライプニッツの生命観——永井博 040
 ●西田幾多郎＋バートラドツセル＋エドワード・O・ウエルツン＋ルートヴィヒフォイエルバッハ 044
- 5 ホプフズの契約説とライプニッツの共生説——長尾龍一 046
 分てガールとライプニッツ——木田元 050
 ●湯川秀樹＋フリードリヒニエチエアーサー・O・ラウジヨイ 053
- 6 「理」と「氣」と「モナド」——堀池信夫 056
 有機的戦略と「宇宙の鏡」の受容「ライプニッツとデイドロに於て」——青山昌文 060
 ●五来欣造＋ジヨセフニータム＋ドゥニティドロ＋クルトゲイデル 064
- 7 ライプニッツと普遍エクリチュール——アンヌ・マリー・クリスタン・谷川多佳子 067
 ライプニッツにおける観念と表出——イザン・シラヴァル(岡部英男訳) 071
 ●ベルナルル・ボヴエド・フォントネル＋ジャンマルタン・シヤルコー 077
- 8 『人間知性新論』の現代性——アンドレ・ロビネ(福島浩紀訳) 078
 哲学的ミニミニテーションの戦略——シシル・ファン・(岡部英男訳) 082
 ●J.W.ゲテ＋シルドゥルス＋T.S.エリオット＋アンリ・ベルクソン 087
- 9 数学の哲学へのアクチュアルな意義——ヘルベルト・ブーゲー(酒井謙訳) 089
 ライプニッツ生誕三三〇周年祝賀学会に出席して——石黒ひつ 092
 ●P.S.ラフランス＋E.フッサール＋フランセズ・イエイツ＋ウベルト・エーロ 097
- 10 ニエートンとライプニッツ——彌水昌吉 100
 情報科学の最前線とライプニッツの夢——黒崎政男 104
 ●エルストマッハ＋エミール・デュボア・レーモン＋マックス・プランク＋オリバー・サックス＋G.W.F.ヘーゲル 108

* 本文中の肩書は、初出当時。〔〕は初出後の編集部補足。